



## アイヌ文化学習(総合的な学習の時間)について

校長 岩崎 撰也

全国的にコロナの感染状況が収まりつつあり、根室管内においても感染者が1桁となっている日が続いている中であって、学校でも少しずつ通常の教育活動が行えるようになってきています。6月23日(木)には白糠から講師の大森 恵様をお迎えし、今年度1回目のアイヌ文化学習を行いました。2年生は3・4時間目にアイヌ文様を使った切り絵の学習を行い、5・6時間目に全校で講話を行いました。このときの内容についてお伝えします。

### (2年生 アイヌ文化学習)

- ・アイヌ文様を使って、切り絵の作品作りを体験しました。
- ・アイヌ文様で特徴的な「尖ったところ」は植物の鋭角的な尖りを表していて、体の中に病気や邪悪なものの侵入を防ぐという意味があると説明していただきました。
- ・どの生徒も興味を持って真剣に取り組み、素敵な作品を作っていました。



### (全校 アイヌ文化講話)

- ・はじめに、白糠のアイヌ文化施設ウレシパチセの映像を見せていただきました。アイヌ舞踊を訪れた人たちと一緒に踊る様子や「海の神に祈りを捧げる儀式」の様子、アイヌの女性と結婚された地域の方へのインタビューから、自然への畏敬や感謝を持ち、人への優しさを持って、「共に生きる」アイヌの人たちの心を感じることができました。
- ・「クナシリ・メナシの戦い」ではアイヌの人たちが不当な労働や不平等な交易によって苦しめられたこと、同化政策ではアイヌの言葉を使うことが許されず、日本語を使うことを強制されたことなど、アイヌの人たちが虐げられた悲しい歴史についても伝えていただきました。
- ・沖縄を訪問した際に、アイヌの人たちと沖縄の人たちの顔がそっくりなこと互いに驚いたというお話を紹介してくれました。遺伝子的にも近く、互いの文化でも共通する部分があることから、日本の民族のルーツについて考えるためのヒントになるエピソードと感じました。



今まで経験したことと違う体験をする中で美しさや素晴らしさ、アイヌ文化の深みを生徒たちは感じ取っていました。この「自分が持っている世界と違っていて、素晴らしい」と感じることを心に受け入れることは、これから先、生徒たちが多様化の進む社会を生きていく中で、自分の世界を広げ、成長していくためにとても大切な心のあり方であると思います。